

### 第3回開催 知事と語ろう市町村ミーティング in 金山町

【と き】 平成21年7月10日（金） 14:00～16:00

【ところ】 金山町農村環境改善センター

【参加者】 参加者総勢 130名



- 【1 種雄牛 平忠勝について】
- 【2 つや姫の栽培適地指定について】
- 【3 全国育樹祭の招致について】
- 【4 1級河川沙河川の支障木について】
- 【5 最上川遺産登録について】
- 【6 アンテナショップ（緑の感謝祭）について】
- 【7 さんさんプラン、教育研修費の確保について】
- 【8 遊学の森にある木もれび館のスロープ設置について】
- 【9 少子化対策について】

#### 【1 種雄牛 平忠勝について】

☆ 杉沢地区の者です。

知事さんは県の種雄牛「平忠勝」をご存知でしょうか。その牛はこの金山町で生まれました。母牛まさこは私の家で生まれまして、確か平成4年頃、鹿児島から子牛を導入しまして、平成6年頃に私の家で生まれ、私が事情で牛飼いを辞めることになった、平成10年まで我が家にいました。その後平成14年に「平忠勝」が誕生しました。牛飼いを10年以上やっていたが、県の種雄牛の候補になっていると聞いて、まさかそんなにすごい牛に成長したとは思ってなくて、今回、県の畜産関係の方々にお礼を言いたくて、この

牛の本当の評価はこれから、これからの PR 運動の応援をよろしくお願いします。

知事

ありがとうございます。すばらしい牛だと聞いておりましたし、名前がすごいと思いました。「平忠勝」すごい立派な、お侍さんのような名前で、写真を農林水産部の方から見せていただきました。堂々とした体格の牛さんでした。すばらしい子孫を、と思っています。ご期待に沿うようにがんばって参りたいと思います。

## 【2 つや姫の栽培適地指定について】

☆ 農業をやっています。よろしくお願いいたします。

吉村知事は、就任以来、山形県の農業を元気にする必要があるとして、具体的には、今後4年間農水予算を1.5倍にする、また、年間の農業生産額を3,000億にするという目標を持ってがんばっておられるので、我々農家としては、大変勇気付けられているところです。私は、夏場は、稲作ときゅうり、冬場は山菜の促成栽培をやって、年間通して農業で生活しています。前は、米の単作でしたが、山菜の促成をはじめてから20数年経ちますけれども、今は田んぼの収入よりも、冬場の収入のほうが多くなっています。稲作ですが、皆さんご承知のように米価の低迷、資材や肥料の高騰、加えて転作面積の拡大など非常に厳しい状況の中で行っています。そういう中で、今年から始まるつや姫の栽培が本格化するわけですが、金山町にはわずか13ha、これから期待される品種であることから、栽培の面で厳しい栽培条件がつけられることはわかっているが、何とか、もう少し栽培できるように栽培の範囲を広げていただきたいと思います。よろしくお願いします。

知事

はい、どうもありがとうございます。私、選挙の時から、また就任してからも山形県は農業県だから、農林水産業が元気にならなければ、山形県も元気になれないのだと申し上げて参りました。そして、4月に農林水産業活性化推進本部を立ち上げまして、活性化に取り組んでいる最中でございます。つや姫はやはり期待の品種でございまして、自信を持って全国の皆さんにお届けできるお米だと思っております。販売戦略があり、最初からたくさん出すと需要と供給ですから、安くなってしまったら困るということもあって、今年の秋は先行販売で少なめに、来年の秋は本格販売と考えているようです。販売戦略があるから、どなたにでも栽培いただけることに今はなっていません。たくさん農家の方々がつや姫を作りたいのだけれど、とおっしゃる声をおききしております。また、栽培するにあたっては、いろいろな条件を付けているとも聞いています。品質管理もありますので、値段的にしっかりした地位を得ることが大事だということです。ただ、はえぬきの時は、あまり作らなかった、県外にも作らせなかったことから、全国に流通する量がとても少なくて、

皆さんに知ってもらえなかったことから、いい値段がつかなかった、品質がいいのにそれに見合う値段になっていなかったというご批判をいただいているところです。つや姫は、こういうことがないようにということで、農林水産部でも戦略をしっかりと考えているようです。金山町の栽培面積が少ないとのご意見でしたが、そのことで詳しく総合支庁でお答えできましたらお願いします。

産業経済部長

産業経済部長でございます。つや姫に関しましては、品質、食味、安全の3つをしっかりと作ることが、ブランド戦略の生産面での基本になっている。つや姫はコシヒカリと同じように晩生の品種であることから、収穫時期に冷害にあい易い。これを避けるために、気象条件をきっちり調べて適地のマップを作りました。金山町のコシヒカリの栽培面積が11haしかございません。そういう意味では13haは、適地があっているのでは、ただ今後、2010年度の本格デビューが終わった後にはどうなるかわからないが、最初の品質確保面からいうと、最上全体で243haの配分がきているが、そのうち13haはそんなに少ない面積じゃないと思っています。気温と品質特性から、収穫期にやられてしまう危険があるので、確かな品質の米を出すためには、適地マップと特別栽培米マニュアルを守ってもらって出すと考えているので、ご理解をいただけたらと思っております。

### 【3 全国植樹祭の招致について】

☆ 県民の森がある柳原地区の区長です。知事、町長に是非お願いしたい件ですが、県民の森ができて、かれこれ10年近くなり、70名程の地権者がいますが、その当時、開発公社の方が大変親身になって交渉していただいて、スムーズに土地の収用ができて、立派な県民の森を作っていただきました。その際に、私達地権者で地権者会の組織を作りまして、その当時天皇皇后両陛下をお迎えしての全国植樹祭があると聞いておりましたので、いくばくかの協力をしようと考えた組織です。平成14年に盛大に大盛況のうちに植樹祭が執り行われました。あれから7年が経過しましたが、10年後には皇太子ご夫妻をお迎えして、是非全国育樹祭を開いていただきたいという思いから、地権者会の組織を解散しないで、楽しみにして期待して待っているところであります。後3年後に、知事さんの力添えと、町長さんのご尽力で、是非皇太子ご夫妻をお迎えして、育樹祭を開催していただければ、この町の活性化にもつながるのでは思っております。どうかよろしく願いいたします。

町長

大変貴重なご提案をいただき、ありがとうございます。町のほうでも6月25日の総合支庁での要望会の際には是非、育樹祭の開催を遊学の森で、10年ぐらいという大まかな目

安なんですけれども、そのくらいで開催していただきたいと要望させていただきました。ただ、植樹祭は全国47都道府県で二巡目に入っていますが育樹祭はまだ一巡目の途中で今年が、33回目で、まだ14残っていることになりますので、県としてなるべく早く開催するにあたって、是非、遊学の森を使っていただきたいとの思いは私も同じですので、これからも要望していきたいと思います。ただ、実施するとなりますと、いろんな手順もあり、すぐに何年後とはっきりできないこともあろうかと思っておりますので、その辺は、きちんと連絡を取りながら、進めて参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

知事

はい、ありがとうございます。育樹祭について調べさせていただいたところでは、町長さんのおっしゃるとおり、全国47都道府県を一巡していないのですね。また、数年先まで内定しております。そういう事情から、全部クリアすることは結構難しいと考えております。皇太子様をお迎えするという、金山町の皆さんのお気持ちは、私も願うところですが、大変かなと思っておりますが、できるだけの検討はしていきますので、ご理解いただきたいと思っております。

#### 【4 1級河川沙河川の支障木について】

☆ 山崎地区の区長です。一級河川沙河川のしゅんせつと支障木の伐採についてであります。当山崎地区には昭和50年代にはほ場整備事業により改修された沙河川があります。管理は山形県南部育部地区維持管理組合が行っていましたが、その後一級河川に認定され、県管理となっております。河川の状態は長年による土砂の堆積及び支障木の繁茂により、ほ場の排水に支障をきたしており、法面及び農地の崩壊が進んでいるところです。大雨の時には、農地への冠水が懸念されます。当地区では、毎年7月の第1週日曜日に、河川愛護デーの河川一斉清掃時には、支障木の伐採を行っておりますけれども、なかなか距離が長いために、一回で進む距離がわずかなことから、是非、堆積された土砂、及び全長で延長が1.8キロの距離がありますが、過去3年間で約400メートル程、しゅんせつ地を取ってもらったが、まだまだ距離が長いのために、予算関係もあると思っておりますが、出来れば早期に、一気にやっていただくよう要望いたします。よろしくお願いいたします。

知事

はい、どうもありがとうございます。いろいろなご心配があるかと思っております。こういう季節ですから、どんどん木や草も伸びる時期であると思っております。繁茂状況を確認しながら、出水時に草木が障がいとなって洪水の危険性が高い箇所については、伐採などの対応を早急に実施して参りたいと思っております。地域の皆様のご協力についても、よろしくお願いいたします。総合支庁のほうから、お願いします。

建設部長

最上総合支庁建設部長です。毎年、河川愛護デーに参加いただき支障木の伐採を行っていただいていることにお礼を申し上げます。お話の箇所ですが、県営のほ場整備事業で幹線排水路として整備された区間を平成6年から、山形県で管理をしています。排水路といった機能上、勾配が多少ゆるくなって、土砂がたまりやすい箇所になっています。ここからが私の話ですが、最上総合支庁管内約640キロメートルの河川を管理しておりまして、支障木の伐採や土砂のしゅんせつについてはいろいろなところからご要望をいただいております。現地の調査を行った上で、危険度の高いところから順次計画的に対応させていただきたいと考えております。一度ごいっしょに現地、ご覧いただき、また、町の方とも相談をしながら対応したいので、よろしく申し上げます。

もうひとつお願いですが、しゅんせつ土砂について、持っていく場所がなかなかないんです。持っていくほうで、どういう土がいるかということもあるのですが、たとえば道路の盛土に使うのであれば、ある一定の基準を満たすものでなければ使用はできないということになりますので、その辺の情報についても、ご協力いただきながら引続きよろしく申し上げます。

#### 【5 最上川遺産登録について】

☆ 上台の者です。上台は、イザベエラ・バードが一番にこの町を印象づけられた場所です。知事にお聞きしたいことは、前の知事さんが推奨された中で、唯一関心をもって、興味をもっていたのが最上川世界遺産登録のことで、今度、あの夢のある事業を見直されるということにつきまして、なんとなくわかったようで、わからないと疑問を持っておりました。先日ですが、公民館の歴史講座で羽黒山を回ってきました。羽黒山の五重塔の前でボランティアのガイドさんが、最上川が入ってきたので世界遺産の夢は消えた、という話をされました。私もなんとなくこれが理由かなと、一人で勝手に納得をしましたが、そのことについて簡単で結構ですのでいきさつについてのお話をおうかがいしたいなと思います。あわせて最上川重要文化的景観の選定、確かに、最上川は山形県の宝だと思っております。他の地域から見て、たいしたものでもなくとも、その土地にはきわめて大事なものの、宝物だというものがそれぞれのところにあるのだと思います。ただ最上川だけに限るものだけでなく、町村にまで波及するようなやり方であって欲しいなと思っておりますし、その文化財に磨きをかけるブラッシュアップ事業の展開を図るなど、小さなことも影響するような県政をやっていただきたい。宝物と同時に、新しいものとか、便利なものとか、あるいは楽なものとかだけに心が走りがちが当たり前ですが、痛み、苦しみがあってこそ人間としての心のバランス、社会のバランスにつながるのではないかと思いますので社会教育も考えていただきたいと思っております。

知事

はい、ありがとうございます。私が就任してから、かなり焦点を浴びている施策のひとつであると思っています。最上川世界遺産文化事業ということでしばらく続いていたものです。私は県の教育委員を8年間やった経験があります。その間に山形県総合政策審議会委員を2期経験しました。そのときは高橋和雄県知事さんだっただけですが、羽黒山の世界文化遺産登録を目指していたと記憶しています。いつの間にか、私が審議会委員でなくなってから、最上川に変わっておりました。それは、羽黒山も含むということだったらしいですけども、なぜそのようになったかは、詳しくすべてのデータを示さないとわからないと思いますが、世界文化遺産は登録すると、直すとか別の手を加えるが出来なくなる。ですから世界遺産になりたいと手を上げるところもあれば、なりたくないと手を上げるところもあります。いろいろないきさつがあったかと思いますが、この間羽黒山に行ってきましたが、宮司さんの一人は、うちの境内は直さなくちゃだめだ。とおっしゃっていました。昨今、テレビで流されていましたが、ドイツのドレスデンの世界遺産は抹消されました。市民の皆様のために橋をかけなければならなくなったが、橋をかけると今までの景観が崩れるとのことでした。登録すれば、有名になったり、観光客が来たりなどのメリットもあるけど、手を加えられない等のデメリットもある。また、長い年月をかけて努力をし、お金をかけなくてはいけないとのこともあります。ずっとがんばってきたのですが、最上川世界遺産は最上川だけではなく、流域に65の文化遺産があつて、それも構成遺産となっており、それらも含めて文化財として評価されなければならない。教育委員会の話によれば、そのクリアするのは難しいとの話でありました。一方、ユネスコにおいても、認定が年々厳しくなっている、今800を越えての世界遺産・自然遺産を登録しており、しかも先進国だけ指定しすぎて、後進国の指定が少ないなど、いろんな問題が出ていると聞いています。一年に一個ぐらいにしようかという状況らしいです。前のようにどんどん指定してもらえろという事業ではありません。このたび教育委員会では検討するにあたって県内35各市町村の市町村長さんにアンケートをさせていただいたところ、早急にしなくても良いという意見が26市町村の回答で、まずは、足下の文化財を大切にすべきであるということだったので、これを総合的に判断して、今回はやめましたということです。このままずっと続けても、世界文化遺産になれるかどうかはわからない、県と市町村で、人でも時間もお金もかけてやるのが、今の時期なのかということがありました。地域の文化財は残すべきものであると思っています。文化財や自然遺産は、先人からの送りものであると同時に、未来の世代からの預かりものであるという言葉があります。私は、先人が残してくれた大事な文化財というものを、しっかり未来の世代に残していかなければならないと思っています。具体的な例では、寒河江の慈恩寺があり国の重要文化財がたくさんあり、評価が高いものですが、天井に室町時代の絵馬があるが、消えかかっている、今手当てしないと消えてなくなるのです。山寺立石寺も岩の中の大事なものがダメになっ

たところが一箇所あると聞いています。こういうことを見たり、聞いたりしていますが、今できることをやっておくことが大事ではないかと思っています。崩れそう、朽ち果てそうなものを今手当てできるうちに手当てして、しっかり残すことが大事と思っています。皆様方から掘り起こしてもらって、ここが危ないんだと教えていただいて、皆さんと一緒に残していく事が、地域づくり、街づくりにつながり、また、観光にもつなげていけるかなと思っています。最上川は大事な川です。紅花舟運ということで、日本海を渡って、いろいろな文化が交流し残っていると思っています。大事な川だが、何も世界文化遺産が唯一の道ではないだろうと思ったところです。県民の皆様の御意見が、昨年の11月の朝日新聞のアンケートでは大半の方が最上川の世界遺産登録はどうなんだろうという懐疑的な御意見だったと記憶しているし、私に届く県民アンケート、県民メール、お手紙、はがきでもいろいろあります。最上川の水をきれいにしたいとの声は大変多く、水質をきれいにすることは大事なことと思っています。文化遺産でなくても最上川は、山形県にとって大事な川であることは変わらない。手の届きそうな国の重要文化的景観については継続して、数年ぐらいで達成できたらと思っています。そして、観光ということにも思っているところです。その人にはその人のそれぞれ大事な川、大事な山があると思っています。自分の身近な川、山を大切にすることから始まると思っています。環境を大事にする、誇りを持つ、愛着を持つことで身近な川や山、その中にはもちろん最上川も入っていますし、代表的な川でありますのでこれからも大事にしていかなければと思っています。山形県の歌は最上川です。最上川の民謡もあり、いい歌だと思っています。いろいろご批判の声もありましたが、県民の声のほうを向いておりまして、そのように判断させていただいたことで、ご理解をいただきたいと思います。

#### 【6 アンテナショップ（森の感謝祭）について】

☆ 一町の者です。山形県のアンテナショップについて伺いたい。以前虎ノ門にあった時に金山フェアがあって一度出展させていただきましたが、今度のアンテナショップは、あまりにもいい場所すぎて、我々平民からは遠ざかった感じである。玄関口は狭く感じられるので、今後はもっと開いてくれるのか、個人的に林野庁の主催で、今年で20回目となる緑の感謝祭森の市が日比谷公園で開催されている。今年で3回出展させてもらっていますが、山形県のアンテナショップは我々から、遠ざかっているような感じがするので、個人的に動いていかないとどうにもこうにもならないと思っている。出展料については会場までの距離制になっていて、山形県が埼玉県と一緒にいる。出展料についての見直しについて、林野庁の担当に毎回言っているが、財政的に厳しいとって理解してもらえない。今年、鈴木町長が会場を見てもらったので、私的には大変良かったと思っている。最後に、8月4日に七日町通りで各市町村が参加しての物産市をやるので、時間がとれましたら、知事も是非来ていただきたい。

知事

ありがとうございます。就任してから、アンテナショップに2回行きました。入り口が狭く、うなぎの寝床のように奥のほうに細くなっています。お店としては、そんなに有利な感じでは無いと思います。平民から遠ざかったような気がするとおっしゃいましたが、銀座といっても表通りではなく裏通りに近い感じになるので、おすましたと通りではないと思っています。開店時は、山菜や野菜を販売しました。複数の産地からの出品だったようですが、飛ぶように売れたと聞いております。なかなか野菜を売っているアンテナショップは無いらしいです。最上からのおいしいものを来店していただきたいです。緑の感謝祭森の市については、今まで知らなかったので町長さんから伺いできればと思います。

町長

緑の感謝祭森の市は、日比谷公園で毎年行われているもので、私も他の用事があって、空いてる時間に見させていただきました。全国から集まって来ていますが、出展料が高いということで、前に話題にし、金山町は山形県の最北部なので、秋田県並にお願いしたいと言ったことがあります。行ってみて思ったことは、金山のように林業を主産業にしているところのPRをする場としては非常に良いところだと思っています。クラフト、木製品のほかに、テーブルなど大きなものも出品されています。ただし、山野草を売られているのは2人ぐらいで、注目度は非常に高いと思います。県内でも森林を宣伝する機会は、山形市の物産市があるが、あまり無いのではと思ったところです。去年は、山形銀行本店で金山展を開催していただいて、今年もお願いするつもりですが、金山杉の角材を持っていかどうかと担当者に話をしたところだが、若芽の木、白い木はどこが違うのかなど、来ていただいた方々に実際に見ていただいて、そして説明するとわかっていただけるので、このような機会も必要でないかと思っています。町よりは、個人的にがんばっていらっしゃる方が多いのかと思いますが、町として支援出来るところは支援していきたいと考えていますので、担当課のほうとも相談をさせていただきたいなと思います。森の市で特に気になったのは、地元産であることをアピールするために、ほとんど刻印をされてPRされているものが多かったと思います。そういうPRの仕方もあるのだと思いました。

知事

出展料が、山形が秋田より高いのはなぜだかお分かりになりますか。

町長

会場、日比谷公園に近い程高いのです。

知事



会場に近い程高いのですね。お聞きして、なんで山形が高いのか、林野庁に言ってやらなければと思いましたが、会場までの距離で決まること、わかりました。8月4日の物産市は行けたら行きたいなと思っていますが、私のスケジュールが過密なので調整がつけば行って見せていただければなと思います。ありがとうございます。

#### 【7 さんさんプラン、教育研修費の確保について】

☆ 幅地区区長です。山形の教育について申し上げます。山形県の教育ではなくて、山形の教育です。知事は、7月8日の県議会の予算特別委員会で、澤渡委員の質問に答弁されていました。あたたかい県政のありかたについてですが、元中日大使のライシャワー氏の言葉を引用されたことが、昨日の山形新聞で報道されました。その中身は、自然と人間が共生している、もうひとつの日本を唱されていた、最上川の世界遺産の問題もありましたが、まさに山形県人が脈々として文化を受けついできた、そのものであると私も感激をして読ませていただきました。さらに知事は、山形には日本の心が残っているということで、そうした暖かい豊かな人間性を引き継いでいきたいのだ、したがって、暖かい県政である。というものでした。さらに、山形県人の生き方、豊かな人間性を探ることを大事にしていかなければならないと思います。それは、昨今の日本経済が思わしくない、100年に一度といわれる不景気の時です。こういう時こそ教育に力を入れて、将来の山形県をあるいは金山町を背負って立つ子どもたちに夢を受け継いでいくことが大事だと思っています。太宰治は作品斜陽のなかで、第二次世界大戦後の荒廃した世の中で、新しい人間の生き方を示されていたと思います。このことは、不況下の現在も通用するものと思います。ここまでが前置きで、2つのお願いを申し上げます。これまで県内の先人が築いてきて下さった山形の教育をさらにレベルアップしていただきたい。本日の資料の4ページにその理念、10ページ4番に教育関係の中身がございました、そのことと重複しますが、将来の山形金山を背負っていく子どもたちに、これにひとつとして前知事がやらなかったさんさんプランの完成に早速吉村地知事は手をつけられておられることを、報道で聞いていますので、それを完成させ、さらに山形県は、人口集中地と過疎地の2局面があると思いますが、金山に住み続けるには、金山の昔からのよさを受け継ぎながらやっていく必要があると思います。決して背伸びをしてやってもまずいことではないかなと思いますので、小規模校への手当てとかが必要なのでないかなと思います。第2点は、山形らしい先進的な教育研究、山形県は代々教育県山形・教育研究の実践、施設の福岡、理念の長野と言われてきました。その中で、教育研究の充実と、教育研究費の確保、必ずしも文科省の予算がついてから県もやるものではなくて、県独自に山形県の気候風土、人間の生活ににあった教育研究の指定をしてけば、そんなに大きな予算はかからないと思いますので、是非、山形の教育という事でさらにレベルアップして、我々の子孫が力強く心豊かに生きて行ける山形県金山であって欲しいと思います。よろしく申し上げます。

知事

はい、ありがとうございます。大変貴重な御意見ありがとうございます。自然のなかで生きている人間ですけれども、人間界にあっては、人づくりが基本だと思っています。他の何者にも変えがたいことが、人への投資であり、ここをしっかりとやっていくことが何十年後に花開く日がやってくることになると思っています。教育にしっかりと目を向けてお金をかけることも絶対必要だと思っています。さんさんプランを中学3年まで完成させたいということは、公約ですから今年は中学2年で8校、来年は中学2年全部、再来年は中学3年全部として完成を目指して参ります。一方山形県は過疎地域が多くて小規模校の教育も大事と思っています。目につく派手なところだけでなく、こういうところもしっかりやっていかなければと思っています。2つ目の教育研究についてですが、今年山形大学では、大学院の充実を図ったと聞いています。教職大学院とも連携しながら教育の研究もしっかりやっていきたいと考えています。教育委員会の補足をお願いします。

教育事務所長

教育事務所長です。よろしくお願いします。今の発言についてですけれども、地域の文化を意図した教育を進めて行くであろうという発言だったと思いますが、まさしくそのとおりでありまして、山形ふるさと塾をご存知でしょうか。山形ふるさと塾は、地域の良き生活文化や知恵・伝統芸能などを教え合い学び合う活動です。金山町にも優れた伝統芸能もごございますので、子ども・親・孫そして地域の方々が一体になって継承していくという活動です。金山町では「ありやしょうねんぼんがく有屋少年番楽」「めいあんこ明安子ども歌舞伎伝承会」「いなざわぼんがくほぞんかい稲沢番楽保存会」

たにぐちぎんざんしせきほぞんかい「谷口銀山史跡保存会」やすざわかぶきほぞんかい「安沢歌舞伎保存会」の5団体が参加し活動しておりまして、この成果が地域の活性化そして、高齢者の生きがい作りになっていると聞いております。学校も子どもたちもふるさとの伝統文化を見つめなおすことによって自信を持てることです。そして意欲的に学習に取り組めるようになったという報告がなされております。山形ふるさと塾は、これから団体の応募も可能ですので、金山町のもふるさと塾の輪を広めて子どもたちと地域の方々が一体となった教育活動を展開していただければと思っています。さんさんプランの完成ということですが、今少人数学級だけが話題になっていますが、それ以外にも低学年のたとえば、金山町の小学校のように1学級しかないのですが、38人も、39人もいるようなところには、担任をサポートする先生を配置したり、3年生以上の多人数の学級のところには、副担任・担任をサポートする先生を配置したり、金山町では、標準の法律でいけば、たとえば20人のところ23人で、3人ほど増員させていただいています。金山中学校にも重点強化、英・数で1名配置しておりますので、ご了解いただきたいと思います。また、制度の完成だけを良しとするものでなく、システムを運用するのは教師ですから、教師の質の向上をはかることが大事で、県では山形大学の教職大学院に

入学金の補助も行うなど、優遇して学ぶ制度を作っていますのでご了解いただきたいと思っていますところでは。

#### 【8 遊学の森にある木もれび館のスロープ設置について】

☆ 町の身障協会の者です。ちょっとしたことで、知事さんをお願いしたいことがあります。遊学の森にある木もれび館についてお願いしたいことがあります。正面玄関の階段が非常に高くそして急なんです。我々のような障がい者が出入りするには、なかなか難しく危険なようでもあります。そばに昇降機の施設がございますけれども、その昇降機の係りの人が付ききりでしななければならないとか、椅子のようなものに座るということですけども何となく危険なような感じがします。それで、できるならば、正面玄関に向かって左のほうから入る階段があるんですが、そこにスロープをつけてもらって、健常者も我々障がい者もお年寄りの皆さんも車椅子の方も、皆が出入りして立派な建物を利用するということはできないものかなとお願いをするものです。どうかスロープをつけてもらって利用するようにお願いをしたいと思います。

知事

はい、ありがとうございます。遊学の森の木もれび館の玄関のところですね、車いすの方も障がいのある方も入りやすいようにという事で、スロープをつけてもらえないかというご意見ですね。総合支庁でそのところはどうでしょうか。

産業経済部長

総合支庁産業経済部長です。金山町の遊学の森の木もれび館ですが、当初はスロープの計画がありました。実は、遊学の森のコンセプトが、今まで4つの県民森があるんですけれども、その中で冬も使える、四季を通して使える県民の森というのが、大きなコンセプトでした。冬使うとなれば、ある程度高床にしなければならない、2.5m程あるのですけれども、階段にして使っていただき、下の方は様々な除雪関係の機械を置く倉庫にする形におさまったものです。スロープを作るとなると相当急になる、どうしても自分では上れない、人が押さざる得ないということで電動昇降機に変えた経緯があります。他の県民の森にはすべてスロープがございます。ただし、冬使っていないですから、高さがありませんね。そういう意味ではうまくとれているんですけれども、この遊学の森だけは、冬も楽しんでいただくということであけてるものですからこういった形になってしまいました。おっしゃるとおり、バリアフリーの建物は、私も必要であると思っております。当面、すぐ出来るというものでもございませんので、出来る限り電動昇降機を、遠慮なく利用していただければと我々県の方もそうなんですけれども、指定管理者として委託している、株式会社グリーンバレー神室振興公社の職員にもいっていただければ喜んでお手伝いさせていただきます

のでしばらくの間、そういったものを利用していただきながら遊学の森を活用していただきたいというふうに思っております。スロープは今後の課題であると受け止めております。今後も何かありましたら、ご意見を寄せていただき、我々も真摯に答えていきたいと思っておりますのでよろしく御願します。

知事

そうですね。車椅子の方も障がいのある方も健常者と同じように利用したいというお気持ちだと思いますので、検討させていただきたいと思っております。私もそのうち見させていただきたいと思っております。

### 【9 少子化対策について】

☆ 知事さん、こんにちは。先日3月26日に開かれました、県議会の一般質問を傍聴させていただきましたが、知事さんが進めていらっしゃる新総合発展計画の、少子化対策の基本的な考え方を正しておられました。知事さんは就任にあたって山形県の人口減少問題を喫緊の課題として考えられて、固い決意で取り組むと語られました。県庁内に鏡室さんを長とする、知事直轄の子ども政策室を新設され、大変大きな期待感を持ちながら、私も、地域活動の中で、議会関係はもちろんですけれども、義務教育、あるいは私が傾倒しているものでは、21年度の山形県教育委員会の教育振興課の委託を受けました、幼児とも育ふれあい事業の委託を微力ながらお受けいたしまして、一生懸命スタッフともどもがんばっていることから、人口減少、少子化対策等について考えているところを申し述べ、考えをお聞きしたいと存じます。人口を増やす、少子化対策に歯止めをかけるのは、3つの視点から考えられるのかと思います。第一は、出生率を上げること、山形県内の出生率のアップダウンのデータ傾向と、金山町の傾向が同じで、平成2年は112名の赤ちゃんが生まれていましたが、以後下降線をたどって、平成20年度は、わずか38人、平成19年度より5人減っていて、平成2年の1/3のお子さんしか生まれない状況が発生している状況です。出生数の目減りは、先ほど、さんさんプランの中で触れていましたが、小中学校の学級編成にあたって、たった1名足りないだけで学級の増ができないことが、小にも・中にも発生しています。1人の子ども、2人の子どもでいい、出世率を上げるための、具体的な細い対策をお願いしたい。2つ目は、子育て支援の充実です。山形県は、夫婦共稼ぎ世帯が、福井県や富山県と並んで全国トップです。そういう安心感があるとは思いますが、女性の育児休暇の取得率は、平成19年度で全国では約90%であることにに対して、山形県は70%にとどまっています。このことも山形県の課題であると思っております。事業所内の託児所の設置は3%、金山町は、大きな企業が一つ、二つとともし火を消していきました。このことについては、なかなか難しい問題ではあろうと思っておりますが、女性が育児休暇が取れて、安心して子どもを地域の中で預けられるシステムの具体策をお願い

いしたい。お聞きしたい。3つ目は、未婚化・晩婚化はどの町村でも見られますが、結婚数の減少をあげることが大きいと思う。金山町に届けられた婚姻数を調べてみると、平成19年度は15件で、平成20年度は、約30件に増えていますが、この30件は、町内同士の結婚であるため人口減少に貢献したものでないといえます。結婚適齢期にあつて、結婚になかなか踏み切れない方を、県段階で市町村が動けるような出会いの場の提供を充実することによって、確実に、結婚する夫婦の誕生の数が増えるのであろう。そこから望まれるお子さんの出生を夢に描くわけであります。こうした状況の中で、子ども政策室のがんばりは、非常に期待するものが大きく、吉村知事の山形県という広い視点はもちろん、市町村の隅々まで良く見える形で、実態を捉えていただきながら、昨今の計画策定の進捗状況を含めまして、足りない分は是非、国に大きな働きかけをしていただきながら、この市町村が少しずつ出生率を上げて、自慢できる山形県の位置になるようお願いしたい。よろしく願います。

#### 知事

はい、どうもありがとうございます。人口減少ということで、山形県は少子・高齢化が加速して進んでおります。市町村の最重要課題であり、県の最重要課題であると思っております。これをすれば解決するという問題ではなくて、様々な要因が絡み合っていると思っております。現状を見ますと、平成19年には戦後初めて、山形県の人口が120万人を割り込んでしまった。今年5月の人口が118万人、2年間で2万人減っている、1年間で1万人が減っている、ある程度規模の町や村が、毎年ひとつずつ消えていっている、その重大さといったら想像を絶することだと思っております。人口が少なくなると、学校が無くなっていき、物を買う人も減っていく、地域の活力が無くなっていく、由々しき問題であつて行政としては非常に難しい問題ではありますが、なんとかして、できるだけの対策を打たなければならないと思っております。難しい質問をいただいたと思っております。いろいろな市町村で少子化対策を挙げています。まず考えらけるのは、結婚、昔は、仲人さんがいて年頃の娘さんや息子さんがいると、何となく紹介しあつたりして、自然と結婚がなされていたと思いますが、昨今は、仲人さんという言葉は死語になってしまいました。婚活という言葉を使っています。就職活動を就活、結婚活動を婚活ということで、今回の6月補正予算でも精査していただいております。市町村や行政が直接そういうことをやるといろいろな人権問題があつて、直接というのは大変なことがありまして、福井県では、お見合い等を演出するNPOに支援・助成金を出すとかして、やっていると聞いております。未婚化・晩婚化、人生はその人の自由だという考えがあつて、非常に多様化しております。結婚なんかしないほうが楽でいいということや、私は仕事で生きていくのよ、結婚したいのだが、お嫁に来てくれない等といろいろなことがあります。大きな目で見たら何のために人間は生きているのか、何のために生物は生存しているのか、そういう大きな視点で捉えた場合には、適齢期になったら結婚して、子孫を育てて、残してと、ということが自然界

では当たり前の営みであると思っています。人間界では、いろんな考えがあって厄介なことになっていると捉えています。年をとって一人のときは、寂しくなるとか、いろんなことが考えられますが、結婚して一緒に暮らしていくことの喜び、子どもを育てることの大変さだけがクローズアップしないで、子どもを育てる楽しみ、喜びのプラス面に焦点を当てて、結婚・子育ての機運を醸成していくことが必要であると話し合っているところです。今年、知事直轄の子ども政策室を立ち上げました。今回の補正予算で子ども政策室の予算をあげて、昨日可決していただいたところですので、これからが取り掛かる状況です。結婚・子育てを社会全体で応援していくそのところをやっていきたいと考えています。仮称ではありますが、子育て県民会議・子育て基本条例などをしっかりつくって、具体的な施策をやっていきたいと考えております。市町村で取り組んでおられるネットワーク化とか、コーディネートをつないでいけるのは県であると思っていますので、役割を認識してやっていきたいと思っています。庄内のある商工会議所さんでは、仲人のようなことを今度やるからと商工会議所の集まりの中でおっしゃられていました。大変うれしい気持ちになりました。是非いろいろな組織の中でもご協力をいただきたいと思っています。ただ、結婚したくても、生活基盤がしっかりしていないと結婚ができないということもあっております。雇用は大事と思っています。若い人達の生活基盤が無ければ、周りの人が結婚を進めても、責任ある家庭を作っていかなければいけないので、一步踏み出せないという状況であるので、雇用のところからやらなければならないと思っていますし、いろんな施策を誘発的に絡ませて行わなければならないと思っています。女性が育児休暇を取得できるかについても、どのようにしたらやっていけるか、公務員ならできるが、民間では、しっかりやっているところもあれば、そうでないところもあります。民間企業さんと一緒にやっていきたいと思います。ここをやれというわけにはいきません。少子化になれば企業も困るのです。人口が減っていけば、物を買う人が少なくなっていく、車を買う人が少なくなっていく、保険料を払う人が少なくなっていく、全部影響してきます。雇用が無ければ、働く若者が無ければ、社会保障が崩れていきます。10年後、20年後にも派遣労働の形態が蔓延していれば、税金を納めるとかではないので、行政に入ってくる税金も少なくなってくる、年金を下支えする若い世代の収入がダメになるわけですから、年金の制度も狂ってきます。さらに10年、30年、40年たつて、年をとったときには、生活保障をもらわなければやっていけないことになっていくと思います。長い目で見た場合、雇用は重要な問題であると考えています。議会の時にもその考えをお示ししましたが、国のほうにしっかり声を上げて、要望して参ります。全部の答えになったかわかりませんが、総合的な形で取り組んでいきたいと考えております。金山町では、結婚に関してどのように取り組まれておられるでしょうか。

町長

ただいまの質問ですが、この前もそういう質問をされまして、知事さんの話を聞いてなるほどと思ったことがありましたのでご紹介します。町づくりフォーラム、今日も出向くことになっていますが、これまで4地区で開きました。その中で、気になったのは、子どもの数の減少です。結婚することと、子育てをすることの喜びがわからない、子育てすることが苦痛に思うということでは、子どもは増えていかないと思う場面がありました。結婚して赤ちゃんが授かった、そこまではいいのだが、生まれてみると、赤ちゃんはいうことをきかないので、子育ては大変だな、だからもう1人でいいという切実な声をお聞きしましたので、いろいろな要因があってそうなっているとは思いますが、基本として、結婚されて、子どもを育てるのには、苦労はするのだけれども将来、自分を取り囲む肉親としての子孫が残っていくという大きな喜びを目標にしないと、なかなか子どもさんを2人、3人目を持たれる方が増えてこないのではと、先だつての座談会で考えさせられました。たとえば、金山町における施設の整備においては、町立の保育園が1箇所、私立の幼稚園が1箇所、当時は未満児を含めないでそれぞれ満員の状態だったが、今は、保育園はゼロ歳から措置していますし、幼稚園についても年少児から、入って4歳までは預かっているが、環境整備は簡単にできるのだが、人生観・社会教育・家庭教育の分野から進めないと子どもを産み育てたいという人がうまれてこないのではと考えたところです。先ほどの質問で平成20年の出生数は38人ですが、町の少子化対策は、金山町で安心して子どもを産んで、育てていただくために、たとえば、妊婦検診、14回の助成や、出産祝い金を1人目からの支給するとか、乳幼児の医療費の無料化等をやっているが、結婚して子どもを育てることがどこにつながっていくかが一番大事なことと思っていますので、座談会が終わってから全体のまとめをするのですが、結婚の大事さ、子育ての大切さをどうやって伝えることができるのかを、金山町として取り組んでいかなければとあらためて思ったところです。先ほど話した、少子化対策の効果が出るには、少なくとも2年ぐらいはかかると思っていますので、できれば、多くの子どもさんが生まれて、笑い声がいっぱい聞こえるような町を目指していきたいと思っていますので、皆さんからも是非、子どもを育てるのは楽しいよ、小さいときは難儀はするけど、4つ、5つになればいうこときくから、と仰っていただいて、一人でも多くのおぼこ（お子）さんが生まれるように勧めていただければ大変ありがたいなと、思っております。よろしく願いいたします。